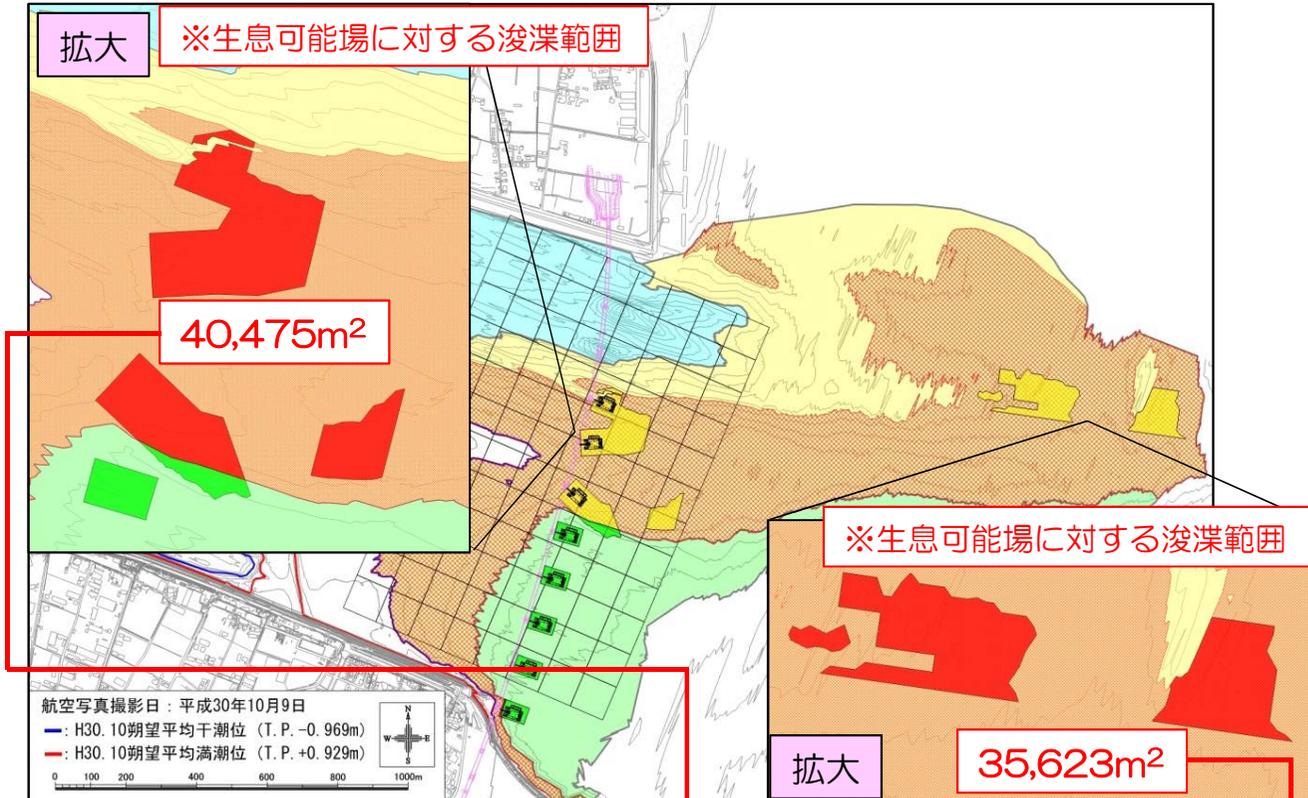


■ 浚渫の影響評価 ～ハビタット区分1の指標種に対する影響評価～



平成30年度濁水期の浚渫範囲に対して、ハビタット区分1ではフジノハナガイの生息可能場に対して6.1%、バカガイに対して5.3%、ヒサシソコエビ科に対して5.1%の影響になることが予測された。

■ 例：フジノハナガイの生息可能場に対する平成30年度濁水期の浚渫範囲



フジノハナガイは、波乗りしながら移動する貝類であり比較的地盤高の高い砕波帯周辺に出現する種である（＝生息可能範囲がより狭い）。浚渫は台船の吃水の確保のため、地盤高が高い箇所に対して行う行為であることから、フジノハナガイに対しては特に注目する必要があると考えられる。そこで、過去に小松海岸でフジノハナガイが確認されていることから、小松海岸におけるバックアップの調査を今後実施することとする。



～ まとめ ～
 ハビタット区分1の浚渫の影響評価結果

最大で

- ・バカガイ 5.3%
- ・フジノハナガイ 6.1%
- ・ヒサシソコエビ科 5.1%

の影響を推定（※定量評価）

今後、フジノハナガイに対しては、小松海岸周辺を対象に別途バックアップの調査を実施して監視する。

項目	バカガイ	フジノハナガイ	ヒサシソコエビ科
生息可能場面積 (m ²)	1,470,973	1,241,876	1,563,192
浚渫面積 (m ²)	77,341	7,6341	79,658
浚渫の影響評価	5.3%	6.1%	5.1%

